

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



平成30年1月



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。



目次

■ プログラム	2
---------------	---

■ 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
-----------------------------------	---

■ 講評	4
------------	---

秋山 哲男 委員 (中央大学 教授)

小山 聡子 委員 (日本女子大学 教授)

高橋 儀平 委員 (東洋大学 教授)

三星 昭宏 委員 (関西福祉科学大学 客員教授)

■ 受賞者事例報告

・ 小型機へのストレッチャー搭載の実現等による離島航空路線のバリアフリー化、 食物アレルギーツアーの企画等によるユニバーサルツーリズムへの積極的な取組…	6
(日本航空株式会社・日本エアコミューター株式会社)	

・ 地下鉄・路面電車の乗降場等の整備、マナー教育の徹底等 ハード・ソフト一体となったバリアフリーの実現	8
(札幌市交通局)	

・ ホームドア整備にあわせた既存路線における車椅子使用者の単独乗降の実現	10
(大阪市交通局)	

・ 官民一体となった先駆的なタクシーのバリアフリー化	12
(鳥取県・公益財団法人日本財団・一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会)	

・ 障害当事者主導の自立支援サービスの継続的・多面的な実施	14
(特定非営利活動法人自立支援センターおおいた)	

プログラム

〔平成30年1月12日(金)〕

● 選考委員からの講評

13:40～14:10

中央大学 教授	秋山 哲男 氏
日本女子大学 教授	小山 聡子 氏
東洋大学 教授	高橋 儀平 氏
関西福祉科学大学 客員教授	三星 昭宏 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

14:10～15:10

日本航空株式会社・日本エアコミューター株式会社

【小型機へのストレッチャー搭載の実現等による離島航空路線のバリアフリー化、食物アレルギーツアーの企画等によるユニバーサルツーリズムへの積極的な取組】

日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社では、誰もが旅、スポーツ、文化を楽しめる社会の実現のため、アクセシビリティ向上に積極的に取り組んでおり、小型機へのストレッチャー搭載や搭乗スロープの導入、食物アレルギー対応ツアーの開発・企画等に取り組んでいる。

札幌市交通局

【地下鉄・路面電車の乗降場等の整備、マナー教育の徹底等ハード・ソフト一体となったバリアフリーの実現】

札幌市交通局では、地下鉄全49駅への可動式ホーム柵の設置や、歩道から路面電車に直接、乗降することができるサイドリザベーション方式の導入とあわせて、全駅員を対象に高齢者や身体の不自由な利用者の介助技術を学ぶ研修を実施する等、ハード・ソフト一体となったバリアフリー化の推進を図っている。

大阪市交通局

【ホームドア整備にあわせた既存路線における車椅子使用者の単独乗降の実現】

大阪市交通局では、ホームドアの整備時に、電車とホーム間の段差や隙間を解消する整備を進めたことで車椅子使用者の単独乗降を可能にし、また、多機能トイレの機能を一般トイレに分散する工夫など、ハード面における駅施設の改善に取り組んでいる。ソフト面では交通局全スタッフによる見守り体制を構築し、一般の利用者にも共助のお願いに努めている。

鳥取県・公益財団法人日本財団・一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会

【官民一体となった先駆的なタクシーのバリアフリー化】

鳥取県、公益財団法人日本財団及び一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会では、官民一体となり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、誰もが移動しやすい新たな地域交通モデルの構築を目指し、県全体でユニバーサルデザインタクシーの導入割合を高めるとともに、利用環境の整備、ユニバーサルドライバー研修の実施などのタクシーのバリアフリー化を進めている。

特定非営利活動法人自立支援センターおおいた

【障害当事者主導の自立支援サービスの継続的・多面的な実施】

特定非営利活動法人自立支援センターおおいたでは、障害者と健常者等誰もが共に生きる共生社会の実現をめざし、小学校等において当事者参画のもと、車椅子でのバスの乗車体験の実施や、バリアフリーツアーセンターの開設等、障害者の住みやすい暮らしに貢献している。

● 表彰状授与式

15:30～16:00

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第11回となる今回も多く優れた取組みが推薦され、なかでも特に優れた取組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学 教授
小山 聡子	日本女子大学 教授
高橋 儀平	東洋大学 教授
三星 昭宏	関西福祉科学大学 客員教授

第11回受賞者の決定

16候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、5件の受賞者を決定しました。

第11回となる今年度の表彰においては、全国各地から16件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全16件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦頂きました。

個々の推薦案件を見ますと、鉄道・タクシー・空港といった公共交通や建築物等について、新たな技術開発も含め、意欲的にバリアフリー化を進める取組が見られます。あわせて、ソフト面での支援も含め、きめ細かなバリアフリー化を進める取組みも見られます。

また、障害者の自立支援の観点等から、障害者の外出機会の提供や、商店街・公園のバリアフリー等、地域に根ざしたバリアフリー化等の取組が見られるところです。

このように、バリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。



小山 聡子 委員
(日本女子大学 教授)

「日本航空株式会社・日本エアコミューター株式会社」は、誰もが旅、スポーツ、文化を楽しめる社会実現に向けて、社内人材育成と、空港見学会等の社会貢献に努めてきた素地の下、このたび保安検査場でのストレス軽減を目指した堅牢な「木製車椅子」を国内空港に導入しました。また、離島航空路線への「小型機へのストレッチャー搭載」や「搭乗スロープ」を導入し仰臥での移動を可能にするとともに、「自動搬送モバイルロボットの実証実験」に取り組んでいます。食のユニバーサルデザインともいえる「食物アレルギー対応ツアー」は、ホテル等での汎用性も見越しています。これらの取組みを総合的に評価し、表彰することとしました。

「札幌市交通局」は、地下鉄全49駅で稼働式ホーム柵を設置するなどバリアフリー化に積極的に取り組んでいます。また、新設した路面電車のループ化区間において、市民参加のもとに、歩道側を走行する「サイドリザベーション」方式を採用したことで、歩道から電車に直接、乗降することができるようになりました。これらの結果、車椅子利用者・視覚障害者など、障害のある人を含む多くの利用者の安全性・利便性が大きく向上しました。これらは鉄道事業における模範となるものであり、表彰することとしました。



秋山 哲男 委員
(中央大学 教授)

「大阪市交通局」は、ホームドア整備にあわせた既存路線における車椅子利用者の単独の乗降を実現しました。車椅子などが通行する場合の段差を軽減するためホームの高上げを行ったことや、トイレの機能分散化、全車両に車椅子スペースを確保したことなど、バリアフリーの基準を越える試みを行っています。さらに車両とホームのギャップを小さくする櫛状ゴムに天板を設置するなど、先進的なバリアフリー化事業に取り組んでいる点を高く評価し、表彰することとしました。

「鳥取県・公益財団法人日本財団・一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会」は、官民一体となり、ユニバーサルデザインタクシーを一気に導入する先駆的事業を行いました。これにより特に車椅子利用者をはじめとする鳥取県下の移動困難者にきわめて大きい移動支援のインフラを整備したことになります。これほど大規模なユニバーサルデザインタクシーを導入したことは、いまだかつて一度もなかったことであり、官民一体となった先駆的な取組みを高く評価し、表彰することとしました。

「特定非営利活動法人自立支援センターおおい」は、車椅子利用者を中心とした当事者の立場で多様な障害者の自立支援サービスを展開する障害者自立生活センターです。近年は学校教育における心のバリアフリー、バス事業者の職員



三星 昭宏 委員
(関西福祉科学大学 客員教授)

研修、観光バリアフリーの事業化に力を注いでいます。法人化前の活動歴も長く、大分県を代表する障害者団体として、これまでの継続的、多面的活動を高く評価し、表彰することとしました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)



選考風景

講 評

受賞者は、誰もが旅、スポーツ、文化を楽しめる社会実現に向けて、社内人材育成と、空港見学会等の社会貢献に努めてきた素地の下、このたび保安検査場でのストレス軽減を目指した堅牢な「木製車椅子」を国内空港に導入した。また、離島航空路線への「小型機へのストレッチャー搭載」や「搭乗スロープ」を導入し仰臥での移動を可能にするとともに、「自動搬送モバイルロボットの実証実験」に取り組んだ。食のユニバーサルデザインともいえる「食物アレルギー対応ツアー」は、ホテル等での汎用性も見越している。これらの取り組みを総合的に評価し、表彰することとした。

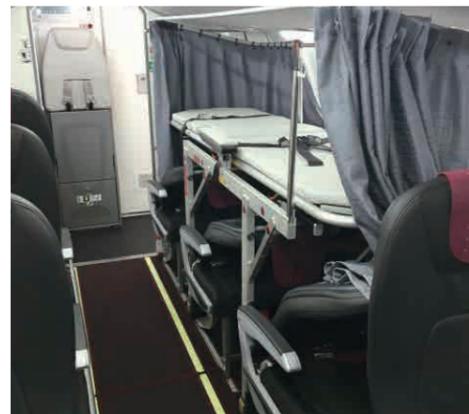
受賞者の取組み

■ 取組みの概要

日本航空株式会社及び日本エアコミューター株式会社では、誰もが旅、スポーツ、文化を楽しめる社会の実現のため、アクセシビリティ向上に積極的に取り組んでおり、小型機へのストレッチャー搭載や搭乗スロープの導入、食物アレルギー対応ツアーの開発・企画等に取り組んでいる。

● 「小型機へのストレッチャー搭載」や「搭乗スロープ」の導入による離島航空路線のバリアフリー化

ATR社との共同開発により、仰向けに寝た姿勢のまま搭乗できるストレッチャーを導入、カーテンでのプライバシーに配慮している。また、パッセンジャーボーディングブリッジを直接使用できない小型機への乗降に際し、車椅子を利用する利用者のためにスロープを配備し、バリアフリー化を図った。スロープの導入により、乳幼児連れや高齢者からも、乗り降りの際の不安が解消されたと評価されている。



ストレッチャー



搭乗スロープ

● さまざまな利用者が楽しめるアレルギー対応ツアーの実施等

アレルギーを持った利用者の、旅行や外食への不安を取り除くために、「安心して食事をし、旅行する楽しみを知ってほしい」という思いから、関連団体や専門家と協同し、食物アレルギーツアーを2010年より実施してきた。食物アレルギーの利用者に評価されると共に、ホテルをはじめとした受け入れ側にも食物アレルギーに関する講習会を実施することで、応需体制を強化してきた。受け入れ側の付加価値向上による差別化や地域力の底上げも図っている。



アレルギー対応ツアーの様子

● 空港内をより快適に移動するための「木製車椅子」の導入、「自動搬送モバイルロボットの实証実験」の実施等

車椅子については、保安検査場において金属探知機で反応し再検査になってしまうことについて、利用者から改善の要望があったところ、2017年7月より木製車椅子を国内の空港に配備を開始した。2018年までに国内全空港（羽田空港国際線ターミナルを除く）に配備を予定している。

本車椅子は、軽量で丈夫、加工がしやすい合板を使用することで、比較的安価で量産が可能であり、たとえば、金属製のものを一切持ち込めない病院のMRI室への移動時の利用など、多様なシーンでの活用が期待できる。また、自動搬送モバイルロボットを使用した、車椅子使用者の手荷物を運ぶ実証実験にも積極的に取り組んでいる。



木製車椅子



自動搬送モバイルロボット

◎ 今後期待される取組み

同社は過去より継続してユニバーサルな取組みを多く実施しており、今回は製品開発としてのストレッチャーや食物アレルギーツアーの企画等を対象として表彰を実施するが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、今後も全国のモデルとなるような施策の実施を期待する。

喜びの声



日本航空株式会社
代表取締役社長
植木 義晴 氏

＜コメント＞

このような栄えある賞を受賞することができ、社員一同、大変嬉しく光栄に思っております。JALグループでは、これまでお客さまの声を大切に、ハード面の整備のみならず、人材育成といったソフト面の充実にも力を入れ、バリアフリー化の推進に取り組んでまいりました。今回共同でプロジェクトを進めさせて頂いた、オムロン株式会社様、株式会社キョウワコーポレーション様と共に、社員一丸となってチャレンジを続けたことで今回の受賞に繋がったと考えております。ご協力頂きました皆さまに重ねまして深く御礼申し上げます。今回頂きました賞を糧に、JALグループは、今後も誰もが旅・スポーツ・文化を楽しむことができる社会の実現を目指し、さらなるアクセシビリティの向上に積極的に取り組んでいくとともに、魅力ある商品を展開してまいります。

【受賞者】 日本航空株式会社

【連絡先】 東京都品川区東品川 2-4-11

【活動等の経緯】

- 2010年～ 食物アレルギー対応ツアー 開始
- 2017年4月 福岡空港での車椅子旅客用の「自動搬送モバイルロボットの実証実験」開始
- 2017年6月 ジャルパック、ホテル日航アリビラと連携し、食物アレルギー対応ツアー（個人型）販売開始
- 2017年7月 木製車椅子を国内の空港へ配備開始

【Web - URL】 <http://www.jal.co.jp/>



日本エアコミューター株式会社
代表取締役社長
加藤 洋樹 氏

＜コメント＞

今回、大変名誉ある賞を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。この度の受賞を社員一同非常に嬉しく感じております。離島生活路線を担う翼として、お客さまの声に寄り添い、ハード・ソフト両面からバリアフリー化に取り組んできたことを、高く評価して頂いたものと思っております。我々のホームグラウンドである奄美群島とその周辺地域は、2018年の世界自然遺産登録を目指し、さらに成長・発展するチャンスを迎えております。今後も地域創生に一層貢献していきけるよう、行動のすべてに、地域への思い、お客さまへの思い、を込め常に行動し続け、「地域の翼」としてそこに暮らす人々の生活を守り、長年培った航空技術力を通じて地域のネットワークを支えてまいります。

【受賞者】 日本エアコミューター株式会社

【連絡先】 鹿児島県霧島市溝辺町麓 787-4

【活動等の経緯】

- 2017年4月 「搭乗スロープ」導入開始
- 2017年8月 「ストレッチャー装着可能機材」導入開始

【Web - URL】 <http://www.jac.co.jp/>

講評

受賞者は、地下鉄全 49 駅で稼働式ホーム柵を設置するなどバリアフリー化に積極的に取り組んできた。また、新設した路面電車のループ化区間において、市民参加のもとに、歩道側を走行する「サイドリザベーション」方式を採用したことで、歩道から電車に直接、乗降することができるようになった。これらの結果、車椅子使用者・視覚障害者など、障害のある人を含む多くの利用者の安全性・利便性が大きく向上した。これらは鉄道事業における模範となるものであり、表彰することにした。

受賞者の取組み

取組みの概要

札幌市交通局では、地下鉄全 49 駅への可動式ホーム柵の設置や、歩道から路面電車に直接、乗降することができるサイドリザベーション方式の導入とあわせて、全駅員を対象に高齢者や身体の不自由な利用者の介助技術を学ぶ研修を実施する等、ハード・ソフト一体となったバリアフリー化の推進を図っている。

地下鉄・路面電車の創意工夫を凝らしたハード整備

既存駅を含めた地下鉄 3 路線全 49 駅に「可動式ホーム柵」を設置したほか、ホーム柵各扉に車椅子対応等を運転手に知らせるための「旅客対応中ボタン」、車両とホームの間隙が 15cm 以上の乗降口には「転落防止ゴム」を設置するなど、利用者の安全・安心に繋がるバリアフリー化を積極的に推進している。

また、路面電車では、ループ化区間において、全国でも珍しい歩道側を走行するサイドリザベーション方式を採用し、歩道から電車に直接、乗降することができるため、低床型車両の導入効果も合わせて車椅子使用者の利用件数が増加するなど、高齢者や障害者の移動等における利便性を大きく向上させている。



東豊線可動式ホーム柵



サイドリザベーション方式の路面電車

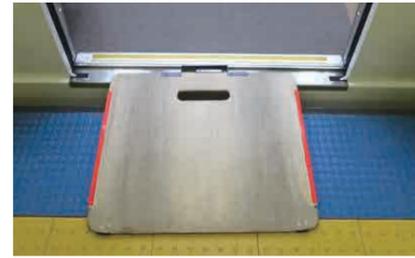
利用者の声や職員の気づきをベースとしたバリアフリー化

地下鉄駅全ての階段を対象に、色により段を容易に識別できるようにし、ゴム材により雨や雪などのスリップを防ぎ、転倒事故の抑制を図るための、階段ステップの改修を実施した。

また、車椅子使用者等が安全に乗降できるよう、ホームと列車の間隙と段差を解消するために、職員により手づくりで「車椅子用渡し板」を開発。長年の改良を重ねて、駅ごとの微妙な段差の違いに対応し、車両の形状に合わせたズレ止め機能を付けるなどの工夫を凝らすとともに、駅員が素早く対応することを目的に各駅のホーム壁面に設置している。



視認性が高く、転倒事故の抑制を図った階段



車椅子用渡し板



車椅子用渡し板（使用シーン）

「専用席」設置をはじめとした心のバリアフリーを推進する取組み

高齢者や障害者等が安心して地下鉄を利用できるよう、混雑時においても一定数の座席を確保しておくべきとの視点に立ち、昭和 50 年 4 月から、優先席ではなく、「専用席」を設置している。長年、継続された取組みにより、専用席に座ることが可能な高齢者等以外は、混雑時においても座らないマナーが浸透しており、他の公共交通機関でも優先席マナーに関する相乗効果が生まれている。

また、困っている人を見かけたら率先して声掛けを行う「困っている人 0（ゼロ）運動」や、全駅員を対象として高齢者や身体の不自由な利用者の介助技術を学ぶ研修を実施するなど、職員に対するマナー教育の徹底等に努めている。



地下鉄の専用席の表示



困っている人 0（ゼロ）運動のポスター

今後期待される取組み

地下鉄については、今後さらに多様な障害者や市民のニーズを把握し、当事者参加・参画のもとでキメの細かいバリアフリー化に努めることを期待する。路面電車については、新規区間におけるより安全・便利な歩道からの車椅子アクセス環境改善の工夫、在来区間におけるホーム改善を含むバリアフリー化の工夫に努められたい。

喜びの声



札幌市交通局
交通事業管理者 野崎 清史 氏

コメント

この度、バリアフリー化推進功労者大臣表彰という名誉ある賞を頂き、心よりお礼申し上げます。

今後ともさらに利用しやすい地下鉄・路面電車となるよう、ハード面の整備を進めることは、もちろんのことですが、それとともに職員の対応、いわゆるソフト対策としての「心のバリアフリー」が重要であると考えております。

バリアフリー対策を進めるに当たっては、職員の積極的な声かけにより、多くの方に安心して地下鉄・路面電車をご利用頂けることを目指してまいります。

受賞者

札幌市交通局

連絡先

北海道札幌市厚別区大谷地東 2 丁目 4 番 1 号

活動等の履歴

- 1975 年 4 月 地下鉄車両の座席に「専用席」を設置
- 2004 年 12 月 バリアフリー整備について意見をお聞きするため、障がい者団体や医師などの有識者による「地下鉄駅等バリアフリー化検討委員会」を開催
- 2007 年 2 月 「専用席」に内部障がいをお持ちの方、マタニティーマークを追加
- 2009 年 3 月 東西線全駅に可動式ホーム柵設置
- 2013 年 3 月 南北線全駅に可動式ホーム柵設置
- 2014 年 4 月 地下鉄マナーキャンペーンにてエスカレーターの安全利用等の啓発（継続）
- 2014 年 12 月 職員自ら率先して声かけする「困っている人 0（ゼロ）運動」を実施（継続）
- 2015 年 12 月 路面電車都心線開業にあたり、歩道側を走行するサイドリザベーション方式を採用
- 2017 年 3 月 東豊線全駅に可動式ホーム柵設置
- 2017 年 10 月 「専用席」にヘルプマークを追加

Web - URL

<http://www.city.sapporo.jp/kurashi/kotsu/index.html>

ホームドア整備にあわせた既存路線における 車椅子使用者の単独乗降の実現

講評

受賞者は、ホームドア整備にあわせた既存路線における車椅子使用者の単独の乗降を実現した。車椅子などが通行する場合の段差を軽減するためホームの嵩上げを行ったことや、トイレの機能分散化、全車両に車椅子スペースを確保したことなど、バリアフリーの基準を越える試みを行っている。さらに車両とホームのギャップを小さくする櫛状ゴムに天板を設置するなど、先進的なバリアフリー化事業に取り組んでいる点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取り組み

■ 取り組みの概要

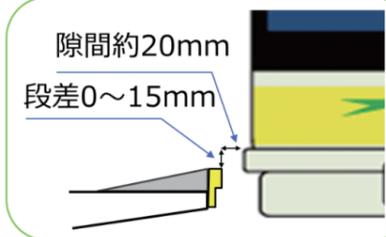
大阪市交通局では、ホームドアの整備時に、電車とホーム間の段差や隙間を解消する整備を進めたことで車椅子使用者の単独乗降を可能にし、また、多機能トイレの機能を一般トイレに分散する工夫など、ハード面における駅施設の改善に取り組んでいる。ソフト面では交通局全スタッフによる見守り体制を構築し、一般の利用者にも共助のお願いに努めている。

● ホームと車両との段差隙間の解消

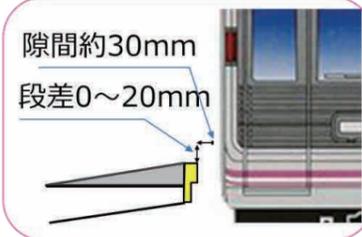
平成 22 年度より既存路線においてホームドアの整備に伴い、ホームを嵩上げし段差を 2cm 程度に、隙間は天板を設置する工夫を加えた櫛状ゴムを設置することで縮小し、車椅子使用者でも自力で乗降が可能となったほかベビーカーや大型のキャリーバッグを持った利用者等、多くの利用者の乗降の利便性を向上させた。

段差隙間解消をホームドアの整備に合わせて路線単位で整備することにより、降車駅を移動途中でも変更できるため、車椅子使用者の行動に幅ができた。

長堀鶴見緑地線



千日前線



車椅子での単独乗降

● ホームドア（可動式ホーム柵）の整備

平成 18 年に開業した今里筋線を皮切りに、既存路線においても長堀鶴見緑地線、千日前線にホームドアを路線単位で導入している。また、利用者の多い御堂筋線でも路線単位での整備を目指しているところであるが、特に接触、転落事故が多かった天王寺駅と心斎橋駅に先行設置し、転落防止に取り組んでいる。



ホームドア（可動式ホーム柵）

● ソフト面の取り組み

駅スタッフが視覚に障害のある利用者に声をかけ、電車に乗車するまでをサポートし、降車駅でも駅スタッフが待機し転落防止に努めてきた。現在は、サポートを希望しない場合でも、出来る限り見守り、視覚に障害のある利用者が多い駅ではインカムなどでホームスタッフと連携しサポートの強化に努めている。他にも、駅スタッフ全員のサービス介助士資格取得や交通局全スタッフによる見守りの体制作りなどに取り組んでいる。

● 多機能トイレの機能分散

トイレのリニューアルに合わせて、可能な限り一般トイレに簡易型多機能便房や広々とした便房等を設け、多機能トイレの機能を分散することで、障害のある利用者がトイレをより利用しやすいよう取り組んでいる。



多目的トイレ

● 各団体との意見交換会

バリアフリーを進めるにあたり、平成 14 年度から障害者団体や高齢者団体など 12 団体と意見交換会や駅等において実証実験を行い、改善に取り組んでいる。



実証実験の様子

◎ 今後期待される取り組み

ホームドアの整備に合わせた既存路線での、ホームと電車の段差隙間の解消は、障害のある利用者の行動の幅を広げることにつながることから、より一層取り組みを発展させていくことが期待される。

喜びの声



大阪市交通局
大阪交通局長 塩谷 智弘 氏

【コメント】

この度は、大変栄誉ある賞を頂き感謝申し上げます。これまで、大阪市交通局では、あらゆるお客さまに便利で安心して地下鉄をご利用いただけるよう、ホームから地上までのエレベーターによるワンルート整備や可動式ホーム柵整備、多機能トイレ設置など総合的なバリアフリー化を積極的に推進してまいりました。

特に、車椅子をご利用の方が安心して自力で地下鉄をご利用いただけるよう可動式ホーム柵設置に合わせたホームと車両の段差隙間をなくす取り組みを高く評価いただきました。

来年度から、株式会社として出発しますが、「人にやさしい地下鉄」の精神を受け継ぎ、更にバリアフリー化を進めるとともに、新会社の企業理念である「最高の安全・安心」を追求してまいりたいと考えております。

【受賞者】

大阪市交通局

【連絡先】

〒550-8552 大阪市西区九条南1丁目12番62号
(鉄道事業本部鉄道統括部鉄道統括課鉄道バリアフリー企画担当)
TEL 06-6585-6656

【活動等の経緯】

- 平成 14 年度 多機能トイレの設置開始（車椅子対応型トイレは昭和 55 年度から設置）
- 平成 18 年度 今里筋線開業に合わせ全駅に可動式ホーム柵を設置（段差隙間も解消）
- 平成 22 年度 全駅においてエレベーターによるワンルート整備完成
- 平成 22 年度 ホームと列車の隙間を解消する櫛状ゴムについて特許取得
- 平成 23 年度 長堀鶴見緑地線（既存路線）全駅に可動式ホーム柵を設置
- 平成 25 年度 自社線乗換全駅においてエレベーターによる乗換経路の整備完成
- 平成 25 年度 エレベーターによる経路改善を開始
- 平成 26 年度 千日前線（既存路線）全駅に可動式ホーム柵を設置
- 平成 26 年度 御堂筋線（既存路線）心斎橋駅、天王寺駅に可動式ホーム柵を設置

【Web - URL】

<http://www.kotsu.city.osaka.lg.jp/>

鳥取県・公益財団法人日本財団・一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会 官民一体となった先駆的なタクシーのバリアフリー化

講評

受賞者は、官民一体となり、ユニバーサルデザインタクシーを一気に導入する先駆的事業を行った。これにより特に車椅子使用者をはじめとする鳥取県下の移動困難者にきわめて大きい移動支援のインフラを整備したことになる。これほど大規模なユニバーサルデザインタクシーを導入したことは、いまだかつて一度もなかったことであり、官民一体となった先駆的な取り組みを高く評価し、受賞することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

鳥取県、公益財団法人日本財団及び一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会では、官民一体となり、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、誰もが移動しやすい新たな地域交通モデルの構築を目指し、県全体でユニバーサルデザインタクシーの導入割合を高めるとともに、利用環境の整備、ユニバーサルドライバー研修の実施などのタクシーのバリアフリー化を進めている。

200台のユニバーサルデザインタクシー導入

平成28年4月に14台が導入されたのを皮切りに、平成28年度中に県全域で125台を導入、平成29年度中に更に75台を導入し、県内タクシーの約4台に1台である200台のユニバーサルデザインタクシーを導入することにより、高齢者や障害者の外出支援を促進する。なお、車両については、ユニバーサルデザインタクシーであることを広く認知できるよう車体色を黄色に統一するとともに、車体に大きく「UD TAXI」の表示を行う等基本デザインの統一化を行っている。



ユニバーサルデザインタクシー

ユニバーサルデザインタクシーの利用環境の整備

鳥取県の玄関口である空港・駅を中心にユニバーサルデザインタクシー専用待機場所の整備、乗降場案内板の整備、段差解消等を行っており、引き続き総合病院等においても利用環境整備を進めることとしている。

導入当初は福祉タクシーのイメージが強く、一般の利用者が利用を控える傾向が見られたが、積極的な広報活動により「ユニバーサルデザイン」本来の誰でも乗れるタクシーとして認知が高まっている。



鳥取コナン空港（待機場整備・案内板表示）



鳥取大丸前（段差の解消（バリアフリー化）・案内板表示）

ユニバーサルドライバー研修の推進

ユニバーサルデザインタクシーの200台導入のみならず、高齢者・障害者等の特性を理解した接客向上のためのユニバーサルドライバー研修を、平成30年度までに県内のタクシー乗務員全員に対し実施することとしている。

実施にあたっては、ユニバーサルドライバー講師資格を一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会役員自らが取得するほか、各タクシー事業者も積極的に受講者を派遣するなど業界を挙げて積極的な研修が行われている。



ユニバーサルドライバー研修の様子

ユニバーサルデザインタクシーの多方面での展開

高齢者の外出支援として、「自宅～介護予防教室～ショッピングセンター～自宅」といった輸送について、ユニバーサルデザインタクシー等を活用するとともに、買物同行支援者として地域ボランティアの育成を行い、高齢者が自立して買物ができるような地域の支援体制の構築を着実に推進していく。

今後期待される取組み

今後、移動距離が長い人など、タクシーの運賃を支払うことが難しい人に対する移動保障をどのようにするかが大きな課題であり、より利用しやすい環境となることを期待する。

喜びの声



鳥取県
知事 平井 伸治 氏

コメント

日本財団様、ハイヤータクシー協会様の絶大な御協力を仰ぎ、小型の半数にも達するユニバーサルデザインタクシー導入を実現することができました。人口最少県だからこそできる「暮らし方日本一」の地方創生のモデルとして、誰もが利用しやすい地域交通の実現を目指して挑戦してまいります。

【受賞者】 鳥取県

【連絡先】 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地（鳥取県地域振興部交通政策課）
TEL 0857-26-7641

【活動等の経緯】

- 平成27年11月 鳥取県と日本財団が「日本一ボランティア先進県」を目指す地域創生のモデル的な地域づくりを実現する共同プロジェクトの協定を締結
- 平成28年4月 ユニバーサルデザインタクシー第1期導入（14両）
第1回ユニバーサルドライバー研修（以後、平成29年12月までに18回開催、545名受講）
- 平成28年10月 ユニバーサルデザインタクシー利用実態調査
- 平成28年11月 ユニバーサルデザインタクシー案内看板設置（鳥取空港、鳥取駅前）
- 平成28年12月 ユニバーサルデザインタクシー第2期導入（111両）
- 平成29年5月 ユニバーサルデザインタクシー案内看板設置（鳥取大丸前）
- 平成29年8月 ユニバーサルデザインタクシー案内看板設置（境港駅）
県西部地域においてユニバーサルデザインタクシーによる自転車積載サービスを開始
- 平成29年11月 ユニバーサルデザインタクシー第3期導入（75両）

【Web - URL】 <http://www.pref.tottori.lg.jp/263497.htm>



公益財団法人日本財団
会長 菅川 陽平 氏

コメント

この度は、名譽ある賞を賜り感謝申し上げますと共に、本事業の実施にご協力頂いております関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。今後も年齢や性別、障害の有無などに係わらず、誰もが移動しやすい地域交通の発展に向けて取り組んで参ります。

【受賞者】 公益財団法人日本財団

【連絡先】 東京都港区赤坂1丁目2番2号日本財団ビル
TEL 03-6229-5111 FAX 03-6229-5110

【活動等の経緯】

- 平成27年11月 鳥取県と共同プロジェクト協定書を締結
- 平成28年2月 日本財団鳥取事務所開設準備室を設置
- 平成28年4月 鳥取県庁本庁舎内に日本財団鳥取事務所を開設
鳥取県東部にてユニバーサルデザインタクシー14台を導入
鳥取県全域にてユニバーサルデザインタクシー111台を導入
- 平成29年1月 鳥取県全域にてユニバーサルデザインタクシー75台を導入決定

【Web - URL】 <https://www.nippon-foundation.or.jp/>



一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会
会長 船越 克之 氏

コメント

この度は、国土交通大臣表彰という名譽ある賞を賜り、心より感謝申し上げます。今後も、ユニバーサルドライバー研修を重ねたタクシー乗務員の接客向上に努めるとともに、高齢者の外出支援等福祉施策としての活用等、ユニバーサルデザインタクシーの利便性を生かした「誰もが移動しやすい新たな公共交通モデル」の構築を図っていきたく思います。

【受賞者】 一般社団法人鳥取県ハイヤータクシー協会

【連絡先】 鳥取県鳥取市丸山町246番地10 TEL 0857-24-4689

【活動等の経緯】

- 平成28年4月 第1回ユニバーサルドライバー研修（以後、29年12月までに18回開催、545名受講）
- 平成28年4月 ユニバーサルデザインタクシー第1期導入（14両）
- 平成28年10月 ユニバーサルデザインタクシー利用実態調査
- 平成28年11月 ユニバーサルデザインタクシー案内看板設置（鳥取空港、鳥取駅前）
- 平成28年12月 ユニバーサルデザインタクシー第2期導入（111両）
- 平成29年8月 ユニバーサルデザインタクシー案内看板設置（境港駅）
- 平成29年11月 ユニバーサルデザインタクシー第3期導入（75両）

特定非営利活動法人自立支援センターおおいた 障害当事者主導の自立支援サービスの継続的・多面的な実施

講評

受賞者は、車椅子使用者を中心とした当事者の立場で多様な障害者の自立支援サービスを展開する障害者自立生活センターである。近年は学校教育における心のバリアフリー、バス事業者の職員研修、観光バリアフリーの事業化に力を注ぐ。法人化前の活動歴も長く、大分県を代表する障害者団体として、これまでの継続的、多面的活動を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

特定非営利活動法人自立支援センターおおいたでは、障害者と健常者等誰もが共に生きる共生社会の実現をめざし、小学校等において当事者参画のもと、車椅子でのバスの乗車体験の実施や、バリアフリーツアーセンターの開設等、障害者の住みやすい暮らしに貢献している。

● ユニバーサルデザイン出前授業

県と連携し、小さな子供の頃からユニバーサルデザインを知ってもらうことを目的とし、小学生等を対象とした出前授業を実施。その内容は、県の職員によるユニバーサルデザインに関する説明とあわせて、センタースタッフによる車椅子使用者の自家用車への乗降の様子の説明など当事者目線の説明を多く含み、福祉車両、車椅子を使用した体験学習の機会も提供している。

● バス運転手を対象としたバリアフリー研修

障害者と事業者の歩み寄りを図る事を目的に、運転手を対象とした研修を行っている。研修内容は、障害当事者と一緒に実際のバス停を回りながら、各バス停における注意点を示しながら車椅子のバス乗降の研修を行うもの。

● バリアフリー探検

公共施設等の設備が障害者の利用に支障がないかを実際に使用して調査する。「啓発」と「実務」を目的とし、「啓発」では健常者の人と一緒に取り組むことにより関心を持ってもらうとともに「人づくり」にも繋がらせ、「実務」では本当に困っている箇所を調査し、市や県の担当部署に調査内容を報告している。

● ユニバーサルデザインコンサルタント

旅客施設、宿泊所等についてバリアフリー、ユニバーサルデザインのコーディネートを有料で実施し、その結果に基づき入浴施設や通路の改修を行う。



出前授業の様子



バリアフリー研修の様子



バリアフリー探検の様子



コンサルティングの様子

● 「fix Mystreet」を用いたバリアフリー調査

「fix Mystreet」とは市民と行政が協力し、道路の破損、落書き、街灯の故障、不法投棄などの地域・街の課題をスマートフォンを使用することで解決・共有していくための仕組み。この仕組みを利用し官民協働した街歩きイベントを実施し、誰もが動きやすい街づくりに貢献している。



調査の様子

● バリアフリーツアーセンターの開設 (別府・大分、湯布院、宇佐)

障害者・高齢者が安心して観光を楽しめるよう、パーソナルバリアフリー基準を用いた調査を実施し情報発信・提供を行っている。



湯布院バリアフリーツアーセンター開所式典の様子

● バリアフリーマップの作成

別府市を中心に観光地、ショッピング、飲食店、温泉、公園、交通機関、その他の施設のバリアフリーマップを作成し、ホームページで公開している。

◎ 今後期待される取組み

県内の障害者団体を取り巻く様々なバリアフリー課題解決のリーダーとして、市民、事業者、行政を巻き込んだ広範なバリアフリー・ネットワークの構築を期待したい。

喜びの声



特定非営利活動法人
自立支援センターおおいた

【コメント】

この度、「国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰」を頂き、職員一同大変喜んでおります。平成14年1月の設立から、現在まで16年に渡り、障害者の自立支援活動に取り組む中で、障害者が地域で生活し社会参加を積極的に行っていく為に必要な事を常に考え活動を行ってきました。特に、バリアフリー（BF）及びユニバーサルデザイン（UD）の推進に向け力を入れて参りました。当時も現在においても、BF・UDに着目したまちづくりは、障害者だけではなく、高齢者、子供、妊婦、ベビーカー、外国人旅行者等々においても、「誰もが」使いやすい、そして生きやすいまちであると考えています。今後も、当センター職員一同、「ユニバーサルデザイン社会」の実現に向けて挑戦を続けていきたいと思っております。

【受賞者】

NPO法人自立支援センターおおいた

【連絡先】

TEL 0977-27-5508

【活動等の履歴】

1. ユニバーサルデザイン出前授業
平成27年度～平成29年度
大分県内の小中学校 全21校
2. バス運転手バリアフリー研修
平成27年度実施。現在は、大分県全バス事業者を対象に啓発活動実施。
3. ユニバーサルデザインコンサルタント
大分空港 / 別府市スパピーチスロープ設置、大分県道路事業、その他（旅館・ホテル・温泉等）
4. バリアフリー探検
大分市・別府市・由布市・宇佐市にて実施
※平成27年度から「fixmystreet」を用いたバリアフリー調査の実施。
5. バリアフリーマップ
平成29年度
別府市協働のまちづくり事業補助金にて作成
6. 各事業
平成29年度
由布市（バリアフリーツアーセンター・自立生活センター）開設
宇佐市（バリアフリーツアーセンター・自立生活センター）開設

【Web - URL】

・NPO法人自立支援センターおおいた
<http://www.jp999.com/333/>
・別府・大分バリアフリーツアーセンター
<http://barifuri-oita.com/>